

病院の概要

| | |
|----------------|--|
| 開設 | 昭和31年1月 |
| 開設者 | 茨城県 |
| 院長名 | 吉川 裕之 |
| 病床数 | 500床 (一般475床、結核25床) |
| 標榜科 (35科) | 消化器科内科、循環器内科、呼吸器内科、神経内科、腫瘍内科、血液内科、腎臓内科、内分泌代謝・糖尿病内科、膠原病・リウマチ科、緩和ケア内科、内科(感染症)、内科(漢方)、総合診療科、小児科、消化器外科、血管外科、循環器外科、呼吸器外科、乳腺外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、形成外科、眼科、リハビリテーション科、放射線診断科・IVR、放射線治療科、麻酔科、集中治療科、救急科、病理診断科、精神科 |
| 医師数 | 161名 (平成29年12月1日現在) |
| 指導医数 | 76名 |
| 研修医数 | 50名 (平成29年12月1日現在) 内訳：後期研修医22名、臨床研修医28名 |
| 研修医の主な 出身大学 | 自治医大、筑波大、東大、北海道大、旭川医大、弘前大、福島県立医大、日医大、京都府立医大、福井大、近畿大、愛知医大、宮崎大、慶応大、北里大、杏林大、関西医大、獨協医大、他 |
| 外来患者数 | 1,031人 (平成28年度実績) |
| 入院患者数 | 401人 (平成28年度実績) |



| | |
|------|--|
| 応募資格 | 平成30年度の第113回医師国家試験を受験する方、または、既に医籍登録されている方。 |
| 採用人数 | 11名 (見込み) |
| 試験日程 | 以下URLのホームページでお知らせします。 http://www.i-kenshu.jp/ |
| 選考方法 | 書類選考、筆記試験、面接試験 |
| 処遇 | <ul style="list-style-type: none"> ●身分：臨床研修医 ●給与 (平成28年度実績平均)： <ul style="list-style-type: none"> 1年次月額約533,109円 2年次月額約568,298円 ●賞与：雇用期間が6月を超える場合に支給 (7月期は基本額の0.5ヶ月分、12月期は同1.0ヶ月分) ●社会保険：健康保険、厚生年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険 ●住居補助：茨城県代用公舎制度利用可 (新築2LDKの賃料1ヶ月間10万円程度の物件の個人負担は2万円程度。詳細はお尋ねください。) |

理念と基本方針

プライマリ・ケアの基本的な診療能力を身につけ、医療の社会的役割を理解しながら良質な全人的医療を提供できる医師を養成する。

- 基本的診療能力 急性期疾患を中心として如何なる患者の初期診療にも対応できることを目標とし、プライマリ・ケアの基本的な診療能力(態度、技能、知識)を養成する。
- 問題解決能力 科学的妥当性に基づき診療上の様々な問題に取り組み、自ら問題解決を行い良質な医療を提供できる能力を養成する。
- チーム医療 診療チーム内における自らの役割を理解し、リーダーシップを発揮しながら医療・福祉・保健の幅広いメンバーと協調できることを目標に、コミュニケーション能力を身につける。
- 医療人としての人間性 患者のおかれた状況を適切に理解し、インフォームド・コンセントの精神に則り、思いやりの医療が提供できるように医師としての人間性を涵養する。
- 地域医療 医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識し、さらに茨城県中北部の医師不足の状況を理解し、地域医療に貢献できる医師を養成する。

院長からのメッセージ 吉川 裕之 病院長



当院は茨城県のほぼ中央に位置する、がんセンターを併設した500床の総合病院です。

茨城県では唯一の県立総合病院として、二次救急、がん、難病、結核、エイズ、僻地医療、緊急被ばく医療、災害拠点などの政策医療を担いつつ、地域の中核病院として県民の信頼に応える医療を提供しています。

「患者のための医療」という原点に立ち、より高度で良質な医療を提供する病院を目指して、つねに設備の充実、組織の改革を進めています。

地域がんセンターは、全国がんセンター協議会に加盟して、国立がんセンター等との合同テレビカンファレンス、レジデント講義、派遣研修などを行っています。2名の病理専門医を擁し、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たしています。がんの診療レベルと症例数は、近隣大学にもひけをとらないと自負しています。

特色の一つである総合診療科は、自治医科大学卒業生の初期研修、僻地医療支援、救急医療などを担いつつ、内科グループの一員として活躍しています。

医師スタッフは111名、後期研修医は22名、初期研修医は28名、非常勤医師約70名(平成29年12月現在)で、幹部医師は各学会の専門医や指導医であり、当該学会の指定教育病院に認定されています。

また、大学の臨床教授や非常勤講師を併任する医師も多く、筑波大、自治医大、県立医療大、県立看護専門学校等の学生実習を受け入れ、さらに学会発表、院内カンファレンス、医師会との勉強会なども活発に行っています。

さらに、平成22年10月からは、筑波大学との間で協定を結び、「筑波大学附属病院茨城県地域臨床教育センター」が新たに設置され、当院の機能強化及び県北地域への医療支援を担うことを目的として活動しています。

卒後臨床研修に関しては、従来、厚生労働省の臨床研修指定病院であり、「やる気のある人には十分な機会が与えられ、診療科間の垣根が低く、臨床医としての総合的な知識・技術を身につけられる病院」(修了者のことば)という特徴を誇りとしてきました。2年間の初期研修修了者には、現在、新たな専門研修制度下における基本領域の基幹施設としての準備も進められており、茨城県職員として充実した研修を行うことができます。

平成16年度からスタートした臨床研修の義務化に関連し、職員定員増と指導体制の充実をはかり、当院独自の2年間の研修コースと、大学病院とのたすきかけコースを用意しています。

やる気のある諸君の応募を期待しています。

研修医コメント 2年次 西岡 龍太郎



当院の研修生活で得られること

茨城県立中央病院は初期研修医が身につけることが求められる多くのことを学べると感じています。

近年、研修医の数も増えにぎやかになっていますが、もともとの症例数も豊富で手技や症例の取り合いになることもありません。二次救急の病院ですが県内の医療の要としての役割も担っているため、救急当直や平日日中の救急当番では様々な軽症から重症ものまでさまざまな症例を経験することができます。

また総合病院として様々な診療科がそろっていますが、各診療科とも熱心で面倒見がよい指導医の先生が多く、困った症例のことからプライベートなことまで気軽に相談できる環境です。

多少忙しいときもありますが、指導医の先生やコメディカルの方々にご教授いただきながら成長させていただいていますし、この病院だからこそ医師として成長できていることが多いと感じながら日々を送っています。一緒に成長しましょう！

研修医コメント 2年次 渡邊 明恵



当院の研修は、とても学びの多い研修だと思います。どの科を回っていても平日の救急当番や救急当直があり、年間を通して救急症例を診ることができます。また、それぞれの科では自ら検査計画や治療計画を立てたり、指導医の指導のもとで検査や手技などを積極的に行うことができます。もちろん、困った時や悩んだ時には相談できる環境も整っています。

また、研修医同士の仲も良く、研修医室では他愛もない話から症例の話まで、様々な話で盛り上がっています。切磋琢磨し、共に学ぶ仲間が多くいることも、この病院の魅力の一つだと思います。

他にもたくさんさんの良い点があります。ぜひ一度、見学にいらしてみてください。お待ちしております。

研修責任者コメント 小島 寛 副院長兼化学療法センター長
茨城大学附属病院茨城東部臨床研修センター教授



当院の初期研修では、総合診療、プライマリ・ケア、救急対応の基本的な知識・技能が身につくことを目標とし、上級医によるマンツーマンの指導が行われています。初期研修の2年間は医師としての基礎を築く重要な時期ですが、当院では、やる気さえあれば多くの症例を経験することができ、またカンファレンス、レジデント・レクチャー等様々な教育プログラムが用意されていますので、同時に考える力を養うこともできます。他の施設、特に大学病院では経験できない素晴らしい研修の機会がここには用意されています。2年間の研修で、今後の医師としてのキャリアの基礎になる真の実力、高い現場対応能力を養いましょう。

研修スケジュール例

| | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|----|----|----|----|-----------|-----|-----|----|----|----|
| 1年次 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| | 内科 (6ヶ月間) | | | | | | 外科 (2ヶ月間) | | ※1 | | | |
| 2年次 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| | 地域医療 | 精神科 | ※2 | | ※3 | ※4 | | ※5 | | | | |

※1 1年次の分野から指定して4ヶ月間を研修。(救急分野2ヶ月間、院内小児科1ヶ月間+院内産婦人科1ヶ月間、院内選択科2ヶ月間)
 ※2~5 2年次の院外研修(必修科、病院必修科、自由選択科)は6ヶ月間まで。
 ※2 1年次に院内小児科を研修していない場合は小児科を、研修した場合は自由選択科を研修。
 ※3 1年次に院内産婦人科を研修していない場合は産婦人科を、研修した場合は自由選択科を研修。
 ※4 1年次に救急分野を研修していない場合は救急分野を、研修した場合は自由選択科を研修。 ※5 院内外の選択科を研修。

研修プログラムの特色

- 1 研修医の意志を尊重し、プログラムの自由度を最大限高めることを基本として、研修意欲を引き出す内容としています。
- 2 各研修分野間の垣根が無く、また、各分野とも優れた専門医が在籍し「将来を見据えた」指導を行える体制が整っています。
- 3 自治医大、筑波大、東大から毎年研修医を受け入れ、オープンな雰囲気の中臨床研修に臨めます。

専門研修 (現行の後期研修) について

当院は、日本専門医機構より、内科、外科、総合診療の3つの基本領域において基幹施設としての認定を受けています。また、各大学等の連携施設として専攻医を受け入れる体制が整っており、ほぼ全ての領域で専門研修が可能です。

研修修了後の進路

修了後にそのまま当院で専門(後期)研修を実施することも可能で、多くの実績があります。また、大学等で後期研修の後、専門医となって当院に戻り、永きにわたり後進の育成に尽力されている先生もいらっしゃいます。

研修・認定施設一覧

- ・日本内科学会認定内科認定医教育病院
- ・日本外科学会外科専門医制度研修施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・日本学放射線学会認定放射線科専門医訓練機関
- ・日本脳神経外科学会専門医認定制度訓練施設(A)
- ・日本整形外科学会認定専門医制度研修施設
- ・日本形成外科学会教育関連施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本麻酔学会麻酔科認定病院
- ・日本皮膚科学会認定専門医研修施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本病理学会病理専門医制度認定施設B
- ・日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設
- ・小児科専門研修プログラム関連施設
(基幹：筑波大学附属病院、茨城県立こども病院)
- ・日本リウマチ学会認定施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本血液学会血液研修施設
- ・日本神経内科学会准教育施設
- ・日本腎臓学会研修施設
- ・日本糖尿病学会認定教育施設I
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構関連認定施設
- ・日本消化器外科学会認定専門医訓練施設
- ・日本産科婦人科学会認定機構認定基幹施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修認定施設
- ・日本婦人科腫瘍学会指定訓練施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設
- ・日本核医学会専門医教育病院
- ・日本乳癌学会認定専門医制度関連施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
- ・日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設
- ・日本肝胆膵外科学会認定高度技能医訓練施設A
- ・日本食道学会全国登録認定施設
- ・日本胆道学会認定指導医制度指導施設
- ・日本脈管学会認定研修施設
- ・日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・日本頭頸部外科学会頭頸部がん専門医制度指定研修施設
- ・日本放射線腫瘍学会認定協力施設
- ・日本IVR学会専門医訓練認定施設
- ・日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設
- ・日本静脈経腸栄養学会NST稼働認定施設

専門研修の募集について

| 募集診療科 | 選考方法 |
|-------------|--|
| 内科、外科、総合診療科 | 1. 書類審査(「専門研修プログラム申請書」「医師免許証の写」「基幹型臨床研修病院の長等が交付する臨床研修修了見込証明書」「基幹型臨床研修病院の長等が交付する推薦書」「健康診断書」「本籍地役場の戸籍窓口で交付される身分証明書」) 2. 筆記試験 3. 面接試験 |

アクセス



- JR常磐線 ■ JR水戸線
友部駅より 徒歩 20分
バス 5分
タクシー 5分
- 北関東自動車道 友部ICより約15分
- 常磐自動車道 水戸ICより約20分
友部SAスマートICより約10分 (ETC専用)

女性医師支援コーナー

平成29年度研修医の女性医師の比率は、37名中10名、27.1%で、女性医師の活躍の場面はますます増加しています。レジデント・ルームを新装移転(平成26年度)した際には、女性専用仮眠室が設置されるなど、妊娠中や育児中の宿直研修の免除をはじめ、多様な女性医師支援の取り組みがされています。なお、院内保育園(24時間保育)を活用した育児と臨床研修の両立も可能です。



ひまわり保育園(24時間保育可)

応募問合せ先 茨城県立中央病院

臨床研修管理委員会事務局 田口・鶴井
 〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528
 TEL: 0296-77-1121
 FAX: 0296-77-2886
 E-mail: kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp
 URL: http://www.i-kenshu.jp/

病院見学対応状況

★見学時間…随時(平日) ★対象…全学年 ★宿泊…院内宿泊施設利用可(応相談)
 ★問い合わせ先…担当者: 臨床研修センター 村上、鶴井、田口 TEL: 0296-77-1121(内線5097) E-mail: kenshu@chubyoin.pref.ibaraki.jp